



シニアライフアドバイザー
松本すみ子

有アリア代表、NPO法人シニアワークずRyoma 21理事長、キャリアコンサルタント、早稲田大学第一文学部卒業。団体・シニア世代の動向研究とライフスタイル提案、市場分析などを行い、講演・執筆など多数。著書に「地域デビュー指南術」、「定年後も働きたい。人生100年時代の仕事の考え方と見つけ方」など。

んでいる人にも日常外出のサポートが必要だということが分かった。多いのは墓参り、病院の通院、高齢者施設の送り迎え。地方からのお客さんのサポートで始めた事業だが、最近では、そうした需要が増えている。

相手にも喜んでもらえて、活動している自分も満足できるサービスなので、やりたい人からの問い合わせが多い。今では札幌、宮城、埼玉、千葉、神奈川、山梨、そして、大阪、京都など各地から。問い合わせってくる人たちには、「どうぞ、やってください。ベルサポートの名前を使ってもいいし、使わなくてもいい。料金も自分で好きに設定してください。フランチャイズではないので」と答える。

全国にこの輪が広がれば、北海道の人が沖縄に行く場合、北海道のメンバーが空港まで同行し、沖縄に着いたら、沖縄のメンバーがお世話するということも可能にな

る。「誰もが自分の行きたい場所や目的に応じた旅行や行動ができることで、生きがいを感じる」サ

”ファーストペンギン”の心意気

移動が困難な高齢者のために買い物代行や宅配を提供するサービスがあるが、できれば自分で品定めしながら買いたいと思っている人は多いのではないだろうか。ウインドーショッピングという言葉があるように、買い物はある種の娯楽でもある。体が不自由でも、同行してくれるのなら、出かけてみようと思うようになるだろう。

サービスは提供される側が欲しいものでなければならぬ。松下さんのベルサポートはそこを突いている。そういう見方をしていると、仕事は自然に広がっていくらしい。各種の試験や大学受験などで東京に出てくる未成年者に、親が同行できない場合のサポートも仕事になる。海外から成田経由で里帰りするという外国在住の少年を世話したこともある。

ご遺骨を送迎する仕事も始まった。最近では亡くなった場所と納骨するお墓が離れている場合が多い。実は遺骨はゆうパックでなら送れ

ービスが目標だ。ゆくゆくはこの輪を世界に広げたいという夢も描いている。

のだが、自分では運べないお年寄りなどが、それではあまりにかわいそうだと依頼してくるのだ。埼玉県には全国から遺骨を引き受けて永代供養してくれるお寺があり、協力を頼まれることもある。そういう不便や不都合ことは自分自身にもある。一人起業、小規模事業経営者というのは孤独で、情報が入ってこない。そして、弱い立場だ。松下さん自身も何度か理不尽な扱いを受けている。ある大企業から、あなたの会社を買いたい、専門の部署を作るから、松下さんに責任者として活躍してもらいたいと言ってきた。そして、たくさん資料を要求され、情報を洗いざらい提供したら、それっきり音信不通となった。

そんな経験から、自分と同じ立場の人たちのグループ「チャレンジS」を立ち上げた。会員は50人ほどで、起業準備中の人もいる。会費は半年3千円。2、3か月に1回、ビジネスという範囲の中で

の情報交換と交流を深める活動を行っている。もちろん、飲み会つきだ。

松下さんは「ファーストペンギン」という言葉が好きだという。極寒の嵐の中、海に向かった崖で何千頭ものペンギンが飛び込むかどうか迷っているときに、最初に飛び込むペンギンがいる。辛くて大変なこととわかっていても、そのときの気持ちは逆に、爽快なのではないかと思うのだそう。

to force the number
チャレンジS 実行委員会
「チャレンジS」は一人社長～小規模事業経営者や起業準備中の方々の連帯グループです！



チャレンジSのWebサイトのトップページより

株式会社ベルサポ
<https://www.berusapo.jp/>

